



「経済二流・政治三流そして国民は一流」??

先日共同通信社の世論調査結果では、岸田内閣の支持率は51.0%と、昨年10月の内閣発足以来最低となった。この原因は、「国葬」、「旧統一教会」、「コロナ」の3つだといわれます。先月8日の参院選最終日に起きた安部元総理・街頭銃撃事件（絶命）というショッキングな出来事は、多くの国民の哀悼の念を呼び起こし、葬列中継後の内閣支持率はたぶん最高潮だったはずですが、それが、事件の背景が明らかにされるに従い、特定宗教団体との自民党の係わりがクローズアップされ、問題発言も頻発するなど、内閣不信任の流れになったといえましょう。熱しやすく冷めやすい国民性のためなのか、安倍元総理の国葬についても、「反対」「どちらかといえば反対」が計53.3%を占めるまでになっています。その一方、日本経済新聞などによれば、2022年4～6月の四半期業績でも増収や増益の企業も散見され、コロナ下での日本経済の強靭さも感じられるところです。最近の日本の「政治経済」のトレンドな事象に鑑みますと、（大分昔になってしまいましたが）「経済は一流、政治は二流」といわれ、元気だったニッポンと比較し、寂しいおもいがします。ところで、「失われた30年」の長期低迷状況により、今では「経済も二流となった」との声もある中で、「経済二流、政治三流であっても、国民が一流の国は必ず繁栄する」と熱く語る強気の論者もいるようです…。（果たしてそういえるのでしょうか？）

そんな思いの中で、すでに故人となられた久世光彦氏（名テレビプロデューサーを経て作家としても活躍）の「マイ・ラスト・ソング最終章」という歌の解説エッセー集の中に、おもしろい記述がありました。

隣組
作詞…岡本一平、作曲…飯田信夫

とんとん
とんからりと隣組
格子を開ければ
顔なじみ
まわして頂戴
回覧板
知らせられたり
知らせられたり

とんとん
とんからりと隣組
あれこれ面倒
味噌醤油
飯の炊き方
垣根越し
教えられたり
教えられたり

とんとん
とんからりと隣組
地震や雷
火事どろぼう
互いに役立つ
用心棒
助けられたり
助けられたり



…「隣組（となりぐみ）」（昭和15年にNHKが発表した国民歌謡）…こうしたいい風景が日本の町からなくなって、どのくらいになるだろう。…そのころあって、今ないのは、隣近所の連帯感、ひいては国民の連帯感である。…今ではマンションやアパートの隣の部屋に、誰が棲んでいるのか知らないのが普通だ。

…だから、隣人をはじめから猜疑の目でみる。相手も相手で、胡散臭い顔でこちらを見ている。…ちなみに、夜の町で危難に遭ったら、決して「助けて！」と叫んではいけない。誰も窓を開けない。そんなときは「火事だ！」と呼ばわるといい。窓どころか、みんな血相変えて飛び出してくる…。

※隣組 = 今日の町内会組織

これでは、「国民は一流」といえるのでしょうか？

